

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800683		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホーム あさがお		
所在地	兵庫県神戸市垂水区塩屋町5丁目13-23		
自己評価作成日	令和3年8月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoVoCd=2870800683-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和3年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングからの眺めは海と淡路島が見え、晴れた日には和歌山まで見渡せる。建物も木造建築で温かみのある雰囲気です。築年数も浅く新しい。地域活動として清掃活動は職員と一緒にコロナ禍でも継続している。近所の方が通られた時は挨拶等の軽く交流を持つようにしている。入居者様と職員は親しみのある関係を構築し、安心して生活が送れるように支援している。レク時間を設け、歌いながらのリズム体操や壁面作成・手を使って新聞たたみ・塗り絵等に取り組んでいる。食事は全て手作りし、家庭的なメニューであるが、食べやすく工夫を凝らしている。「自分で食べる」ということを大切にしている。調理の面でも、野菜の下ごしらえや、清掃ではフローアーマップシートを使ってお手伝いして頂いている。生活の中に役割を担っていただいている。体調管理や処置等において往診医との連携を図り安心の材料となっている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活の場である施設として、利用者職員、また利用者同士の良好な関係性構築を一番に配慮されています。利用者同士親しい近所付き合いのような関係性で過ごせるよう、職員が潤滑剤となって利用者間の和やかな雰囲気作りに努められています。日々の生活の中で利用者の楽しみとなる食事については、予め予定されたメニューにこだわることなく、利用者の嗜好や意向を踏まえ、食べやすい、美味しい食事の提供が心がけられています。利用者が体を動かす支援やレクリエーションを取り入れ、楽しみながらフレイル予防への取組が行われています。コロナ禍の制限下ですが、可能な範囲で地域の清掃活動等に利用者と共に感染症対策に配慮した上で参加され、地域との関係性や交流が途絶えることのないように努められています。地域との良好な関係性から、施設周辺地域からの利用照会、申込みも増加しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示板でスタッフ・家族様が見えやすい位置に掲げ、新入職のオリエンテーション時説明し、共有し実践に繋げている。	地域密着型に特化した法人の理念が定められており、利用者本位、利用者の生活の場としての支援提供に努められています。理念は、掲示されると共に、説明用のパンフレット等にも記載されています。理念に沿った、利用者が楽しく過ごせる支援の提供が意識されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回施設周辺の清掃活動を行っている。その時出会った方やご近所様には挨拶するように心がけている。	コロナ禍の制限下ですが、感染症対策に配慮した上で、可能な範囲内の地域の清掃活動等に利用者と共に参加されています。施設が地域に定着してきており、地域からの利用照会や申込等も増加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に今までは地域の方をお誘いし、交流の中で理解を深めてもらえるよう努めていた。コロナ禍では、地域貢献として清掃活動を通じて理解してもらえるように活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年や今年度は運営推進会議も資料をお送りし、ご意見やご指導を賜れるよう一言追加している。第三者の目が入っていない現場であり、サービス向上するため自ら全体会議の時に注意するようにした。ユニット会議に於いてケアの検討を重ねている。	コロナ禍の制限下において、市の方針に従い書面配布による開催が中心となっていますが、ご意見等を頂けるようお願いし、地域関係者や利用者家族等の意向を踏まえた運営となるよう努められています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や区の保健福祉部の方とは蜜に連絡を取り合っている。 市の介護指導課には、分からないことがあれば問い合わせ、助言を頂いている。	あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)との協働で、地域の方々に向けた高齢者、認知症への啓発活動開催等、地域活動も含めた連携に取り組まれています。利用者の権利擁護推進のため、市関係部署との連携にも努められています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育に取り入れ職員全員が研修に参加し、理解を深めている。サービス担当者会議では、常に今のケアが身体拘束に当たらないか話し合っている。	年2回の職員に向けた研修が開催されています。委員会の内容は、職員間に共有されています。毎月行われるサービス担当者会議では、話し合われる支援の内容が身体拘束に該当しないかを確認し合った上で、支援計画の策定に繋がられています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い常に適切な対応が取れるように日々の言葉かけや介護についても意識を高めるよう指導に努めている。	拘束と含めて、虐待へと発展しないよう、事例を基にした勉強会が開催されており、該当するケースに繋がらないよう配慮されています。言葉かけも、言葉による拘束や虐待に繋がる事が無いよう、表現方法や伝え方に意識した支援の提供を目指されています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員にも周知するよう研修の中に成年後見制度を組み込んでいる。家族様が高齢であったり、遠方の方には成年後見制度を活用出来るよう情報提供支援している。	意思決定、権利行使について必要な情報提供に努められています。家族に対して制度に関する説明にも努められており、将来の利用者の権利擁護を踏まえた話し合いが行われています。職員には毎年研修が行われ、権利擁護の大切さについて共通認識を持つ取組が行われています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時契約書・重要事項説明書など全ての書類を説明をしているが、一度に多くの説明をするため全てをご理解して頂けないのが現状で、時間が経過し改めてお声をかけさせていただいている。改定の際はその入居者様の介護度等で説明をしている。	理念に沿った利用者本位の楽しく過ごせる生活の場であることを主体に、契約書と重要事項説明書の説明が行われています。医療的な面や、終末期に関する方針など、将来重要となる部分の説明に力を入れられており、また、退所時の制約や金銭的負担等トラブルに繋がりがちな項目について理解を得られる説明に努められています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の資料を包括支援事業所・家族様に提出報告し、意見要望を頂けるようコメントを付け郵送している。	面会時や電話連絡時に、気軽に意見が言えるよう、また、意向をくみ上げやすい話ができるように配慮する事に努められています。コロナ禍の制限下においては、面会がほぼ困難な状況であるため、電話や書面による説明の拡充を図り、その際に意見等を聴取できるよう配慮されています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案等は随時聞くようにしている。毎月の全体会議において希望等を聴く機会を作っている。内容によっては管理者会議で報告し組織全体で把握するように努めている。	毎月行われる全体会議にて、職員の意向や気付きの聴取が行われ、職員全体で話し合われています。利用者本位の運営に繋がるよう意識した話し合いが持てるよう努められています。法人全体に係る意見や課題は、法人の管理者会等へ具申し、検討が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、面談等での意見を聞くことで、やりがいや向上心を持って働ける職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは全員に知らせ、希望があれば参加出来るように勤務調整を行っている。ケアの質について出来ていない・力量不足が見られた場合その都度指導を行い知識・技術を身につけるようサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会に参加し、情報交換により刺激を受けケアの向上に活かすよう努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人様の様子や会話、家族様の話などを踏まえて入居当日や1週間ぐらいは特に本人とコミュニケーションを多くとり、不安の除去に繋げ、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で本人・家族様の希望や困っておられること・不安なことなどをお聞きし、安心して入居出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来ること・出来ないことをお聞きし、本人に合った支援を見極め対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームが「家」であり、職員・入居者様は「家族」であるように出来ること・出来ないことを見極め、出来ることは進んでして頂き、一緒にする楽しさを知っていただくよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の入居者様の生活を毎月のおたよりでしっかりと伝えると共に何かあれば連絡をしている。家族様からの連絡時には必ず現況を報告するように努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の歴史を把握し、日頃の会話に故郷や家族様の名前などを取り入れて会話するように努めている。	入居前に関与していた介護支援専門員からの情報も活用し、交友範囲や行き来のあった方々の情報収集に努められています。コロナ禍の制限下において、積極的交流が出来ない中、日常の会話の中に馴染みの場や人を織り交ぜることによって、関係性の維持が少しでも図れるよう努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などの日課やレクリエーションでは入居者様同士が協力しながら関わり合えるように支援している。入居者様同士の関わりを見ながら座席などにも気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて家族様や退去先の関係者と連絡を取りながら経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族様の希望をお聞きし、できる限り意向に基づいた支援をしている。本人様の意向を尊重しつつも自立支援に向けてるように支援している。	利用開始時には、利用者本人、利用者家族の話、また、担当していた介護支援専門員からの情報を書面に限らず口頭でも幅広い生活状況や利用者の日常を含めて収集することによって、生き方や生活面を含めた利用者の意向、思いの把握に繋がられるよう努められています。日々の会話の中や支援時に交わした会話の中からくみ上げられた、思いや意向も支援に反映できるよう配慮されています。	

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様より生活歴などをお聞きし、馴染みのある場に少しでもなるよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を観察しながら、出来ること・出来ないことを見極め引き出せる部分を見つけサポートに努めている。		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や認知症ケア会議を開催し、家族様や必要な関係者とその都度話し合い、ご本人にとってより良く過ごせるように介護計画を作成している。	3ヶ月に一回サービス担当者会議が行われており、家族の意見も踏まえた計画の策定に繋がられています。	計画と記録の連続性、一貫性の拡充が求められます。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやサービス担当者会議を開催し、職員同士で情報共有し実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様に合ったサービスに努め、出来る限り本人の思いに添えるような実践に取り組んでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での清掃活動をしている時など挨拶を交わしその場で話す機会があれば話すようにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望などをお聞きし、家族様の協力を得ながら希望の病院に通院したり、必要に応じて専門医へ受診などを支援している。	利用者・家族の意向によって、かかりつけ医が設定されています。施設の提携医は必要に応じ時間外対応等もなされており、適切な医療提供の環境作りに努められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時連絡体制に基づき24時間対応出来るようにしている。 入居者様に異変があった場合など、すぐに報告・指示を仰いでいる。必要時は訪問看護との連携もとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提供し、病棟看護師や担当ソーシャルワーカーと連携し、退院に向けて状況把握し、調整している。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・家族様・主治医を含めて話し合い、本人様・家族様の理解を得た上で方針を決定し、チームで取り組んでいる。	入院時には、必要な情報提供を行い、医療への適切な連携が図られるよう努められています。入院途中で経過情報が共有され、得られた情報を基に、家族と退院後の方針等の話し合いが行われています。退院時には、病院との退院調整が行われ、退院後の支援に反映されています。	

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応マニュアル研修に参加し、実践力を身に付けている。 新入職時も研修している。	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼間と夜間時の消防訓練をはじめ、災害時の避難誘導も行っている。 地域の方々への協力もお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも上げているように一人一人の自尊心を大切にし個々のプライバシーを保持するように努めている。	利用者の尊厳を尊重し、利用者の否定に繋がるような言葉遣い、問いかけ、話しかけを行わないよう努められています。利用者間の行動が、相互のプライバシー侵害に繋がらないよう配慮し、誤って他の利用者のプライバシー侵害を行わないような工夫に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望や思いを表しやすいよう分かりやすい言葉かけや対応をすると共に自己決定が出来るように働きかけている。	/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた声掛けや希望があれば傾聴し過ごしやすい環境を作るように努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に応じてお化粧が出来る方はお手伝いをし、朝職員と一緒に服を選んだりするように努めている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下準備を職員と一緒にやっている。入居者様の中には食器洗いや食器拭きをすすんでお手伝いをして下さる方も居られる。	食事は、利用者の自立維持に配慮し、食事介助を必要最低限にとどめられています。可能な方は、食事の準備や後片付け等、職員と一緒に取り組まれています。利用者に楽しさを感じて頂く事に留意し、楽しく食べられるよう、食事の際の雰囲気作りにも努められています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量はデータを取り、一日に必要な量を摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来るところはして頂き職員は仕上げ磨きを介助している。 週1回の訪問歯科往診も受けている。歯科衛生士による指導を受け清潔保持出来るよう実践している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個別の排泄パターンを観察しながら自立に向けた排泄ケア(トイレ誘導)を行っている。	排泄の自立維持に留意し、介助を最小限にとどめる支援の提供に努められています。利用者の雰囲気や動作などから適切な誘導に繋がられています。プライバシー配慮にも留意し、羞恥心を抱かない誘導や動向に努められています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事摂取量を把握しており、適宜運動や腹部温罨法・マッサージなどを取り入れている。 また便秘が頻回にある時は主治医に原因や影響を報告・相談し薬処方してもらっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴について希望やタイミングを計らい楽しんで頂けるように、湯温や量など個々に応じた支援をしている。	入浴介助を必要最低限にとどめ、利用者の自立した入浴を優先されています。利用者の意に反することなく、利用者自ら入浴にむかえる支援に努められています。利用者の羞恥心に配慮し、利用者の意向に沿った支援に留意されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切に、居室で過ごされる際は訪室し安否確認をしている。体調に合わせて声掛けをし居室で休めるよう室温・テレビ・照明など環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が全て理解できているとは言えない。しかし薬の説明書は職員が直ぐに見れる場所に保管している。服薬前後職員2名で内容を確認している。異常等がある時は、主治医との連携も取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を確認し、日課活動としてのお手伝いや外気浴・行事を行い、気分転換を図っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、現在はベランダや玄関先に出て外気浴程度の支援をしている。 近所の子供達のいない時間帯に公園の清掃活動を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口金銭管理としてお小遣い程度の金額を預かっていることを本人にお伝えし、本人の希望があればお買い物サービスで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば家族様に電話が出来る様に支援している。また家族様からの電話の取次も行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整や換気をこまめに行い、快適に過ごせるよう配慮している。 季節に応じた壁面制作を入居者様と一緒に作り、季節を感じてもらえるようにしている。	季節感を出した装飾を心がけ、毎月装飾内容の変更が行われています。装飾は利用者も参加し、一緒に楽しい雰囲気作りが行われています。温度調整や換気にはこまめに配慮し、快適な空間作りを意識されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の関係性を考慮し、居心地の良い空間となるように座席等工夫している。 キッチンにもテーブルを配置している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・家族様と相談し、使い慣れた家具などを持って来て頂き、家族写真やお誕生日カードなどを飾り、自分らしい生活感のある居室にしている。	自宅に置いていた調度品や装飾品は持参され、利用者個々が思い思いの物を配置しています。安全上の配慮を踏まえた範囲で、多くの私物を持ち込まれている利用者もいらっしゃり、好みの部屋づくりがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来ること・楽しめること・理解できることなどを把握し、安全や自立した生活を支援出来る様に努めている。		